

2. 事業の概要と成果

(1) プロジェクト目標の達成度
(今期事業達成目標)

【上位目標】災害対応における官民パートナーシップの促進および緊急対応の能力強化を通じた持続的なプラットフォーム基盤の構築」

【プロジェクト目標】スリランカ国内で、マルチアクターによる災害対応時のネットワークの機能を強化し、大規模な災害対応も可能な災害対応能力を、特に緊急災害対応要員の育成、企業の災害対応能力向上の点において、コロンボの他、地方部まで高めること。

■達成度

1. 災害時に連携する官民セクターのネットワークが拡大した：

コロンボ及び地方4州で開催するプラットフォーム会議に参加するメンバーを中心にネットワークを築いており、中央政府機関と太いパイプを持つA-PAD SLが大規模災害が予測される段階からメンバーに情報共有し緊急対応可能な体制を確立している。特にDMCとの関係は本事業で強化され災害・防災の国家政策等への提言4例など、国家レベルの災害・防災の重要なアクターとしての地位を確立した。

2. 官民連携による救助活動へ向けた体制強化と能力が向上した：

A-PAD SLのメンバー団体の中で、実際緊急対応でパートナーを組んだのは89団体（政府機関24、軍関係8、民間37、NGO他20）であった。

【今期事業の目標】次年度に災害救助対応能力を地方部に広げるにあたって必要な緊急対応要員のトレーナーを育成することで、マルチセクターのネットワークを通じた緊急災害対応能力を向上させること。

■達成度

地方におけるコミュニティ内の自助・共助に対する意識改革をもたらし、基本的な救助訓練の紹介でレスキューへの関心が高まった。

当初予定していた地方における対面形式のワークショップは、コロナ禍の影響により、地元ケーブルテレビ局と協力し、防災教育（DRR）や災害への心構えや、避難準備、救助訓練の紹介の教育番組をTV放映した。これにより予定の参加数より多い人数が視聴し裨益者数が増えた。

(2) 事業内容

(ア) 官民パートナーシップ強化

<中央レベルのプラットフォームミーティングの開催>

中央レベル	ミーティング（回）		参加者（人）	
	目標	達成	目標	達成
定期会合	4	6	120	211
セクター会合	6	19	60	261
臨時会合	20	49	100	176
合計	30	73	280	648

<州レベルのプラットフォームミーティングの開催>

州レベル	ミーティング（回）		参加者（人）	
	目標	達成	目標	達成
北部州	3	3	45	110
東部州	3	3	45	161
南部州	3	3	45	95
ウバ州	3	3	45	60
合計	12	12	180	425

<広報活動>

A-PAD SL のウェブサイト (www.apad.lk) は情報発信のメインツールとして最大限活用し、同時に電子メール、SNS、Twitter の他、新聞、テレビ、ニュースレター、ポスター、冊子の発行により国内外に幅広く活動を発信し、プラットフォームとしての各方面のネットワークの拡大に大いに繋がった。

- A-PAD SL ウェブサイト (www.apad.lk) : ウェブサイトの一新は行わず、構成とシステムを見直すことで情報を追加し検索スピードも向上した。結果、HP ユーザー数 579,984 人、訪問 (セッション) 808,015 件、閲覧 (ページビュー) 3,663,075 件。

Marketing Website Summary			Data From Google Analytics	
Users	Sessions	Pageviews	Bounce Rate	
579,984	808,015	3,663,075	45.8%	
↓ -3.9%	↓ -8.3%	↓ -8.8%	↑ 10.1%	

- ウェブサイトのリンク共有パートナー : 目標 1,250 を掲げていたが、パートナー数の増加によりカウント不可能となった。
- HP, FB, Twitter による情報発信 : 137 回投稿
- E-Library 掲載データ : 2000 回
- 隔月ニュースレターの発行 : 隔月 6 回 (各 500 部) 発行、及び 1500 人以上に電子メールで配布
- 政府との提携のパンフレット : 洪水注意喚起、新型コロナウイルス感染の安全対策、防災対策、事業継続計画等 1,000 部。
- メディア : 新聞・雑誌 (8 記事)、テレビ (20 回)、オンラインメディア (9 記事)、A-PAD SL プロモーションビデオ (22 回)

(イ) 緊急対応の能力強化 (民間・軍・政府の連携調整の「基盤整備」)

<捜索救助に関する能力強化>

海外専門家による訓練は 2020 年 2 月 29 日～3 月 7 日、Kitulgala において実施した。

	訓練 (回)		参加者 (人)	
	目標	達成	目標	達成
Level 01	1	1	25	23
Level 02	1	1	25	24
合計	2	2	50	47※

※参加予定者の内 3 名 (Level 1 は 2 人、Level 2 は 1 人) は初日受講前テストで基準に達することができなかったため実際の訓練は不参加となった。

<緊急支援に関する能力強化>

- ・ 於コロンボ :

	訓練 (回)		参加者 (人)	
	目標	達成	目標	達成
コロンボ	4	7	120	151

- ・ 於地方 4 州 (北部、東部、南部、ウバ) :

	訓練 (回)		参加者 (人)	
	目標	達成	目標	達成
北部州	2	3	40	1,052
東部州	2	2	40	89
南部州	2	2	40	48
ウバ州	2	2	40	83
合計	8	9	160	1,272※

※上述のとおり、コロナ禍における対面ワークショップをケーブルテレビ放送に変更したため参加者の数が予定より増加した。

(ウ) 海外組織とのネットワーク構築活動

<国際シンポジウムの開催>

COVID-19の感染拡大の影響を受け、延期していたシンポジウムはようやく2020年10月6日に開催の準備を整えていたが、直前の10月4日にコロンボ北側に隣接するGampaha 県のアパレル工場勤務の労働者1名の新型コロナウイルス感染の確認、PCR 検査で567名の陽性が確認されたことを受け事業期間内の実施を中止とした。

<海外の団体とのネットワーク拡大>

本事業期間中、新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面の会合等は大幅に減少したが、オンラインによる国際会議等へは積極的に参加し、海外の国際機関とのネットワークを拡大した。

- 2019年10月 (於イスタンブール/トルコ) :
第2回目となる WHAF (World Humanitarian Action Forum) 2019のテーマは「Dignity in Humanity」で、世界65か国が参加した2日間の会議に参加。この中の「The Conflict Sensitivity Approach Session of the Conflict Roundtable Discussion」で A-PAD SL の代表が議長を務めた。
- 2019年10月 :
海外企業の資金 (Airbnb Global Disaster Response Fund) で運営された「Open Homes」のサービスの提供を受け北東部モンスーンに出動したレスキュー部隊の宿舎として利用した。
- 2020年2月 (於ジュネーブ/スイス) :
CBI (Connecting Business Initiative) の HNPW (Humanitarian Partnership Week) で官民パートナーシップ (PPP/Private-Public-Partnership) 及び民軍連携 (CIMIC/Civil Military Cooperation) で成果を上げている A-PAD SL の実例を紹介した。
- 2020年5月26日 (オンライン)
CBI 主催の「Preparing and Responding to Multi-Hazard Scenarios」の会議で、A-PAD スリランカ代表が新型コロナウイルス感染拡大下、企業 (HSBC) との連携による支援活動を紹介。
- 2020年6月 15-16日 (オンライン) :
CBI 主催の UN Global Compact Leaders 20th Anniversary Summit で A-PAD SL は民間セクターとの連携による災害支援の実例を発表した。
- 2020年9月 (オンライン)
UN の傘下に事務局を置く都市型レスキューの国際レベルの認定機関 INSARAG (International Search And Rescue Advisory Group) と SAR に関して情報収集のための会談。
- 2020年9月 (オンライン)
CBI 会議に参加。議題「Community Engagement and Accountability in

Humanitarian Action]

(3)
達成された成果

(ア) 官民パートナーシップの強化

1. 政府、NGO、ビジネスセクター、CBO (Community Based Organization 地域社会組織) 等の参加団体の内、ビジネスセクターの災害対応を必要としているコロンボ市内の600の大企業の50%に相当する300社以上(目標300社以上)が会合に参加した。
2. 地方4都市で、プラットフォーム会合が12回開催され(目標12回)災害対応が必要とされている80団体(政府、NGO、ビジネスセクター、CBO等)の内、8割の64団体以上(目標64団体)が参加した。
3. 定例会合、セクター会合、臨時会合を通じて、災害が発生した場合のマルチセクターによる災害対応(準備、予防、緊急対応)の実践が、政策提言を含めて20例(目標10例以上)であった。豪雨・モンスーンをはじめとする自然災害に加え新型コロナウイルスへの対応が増えたこと、また国内で中央政府機関においてA-PADが国内唯一の災害時プラットフォームであることが浸透しており、中央・地方の政府機関でパートナーとして連携の依頼が増えたことが目標を上回ることに繋がった。

	災害	災害対応(回)
1.	イースター同時爆弾テロ (Easter Attacks)	3
2.	モンスーン (Monsoonal Events)	5
3.	新型コロナウイルス感染拡大 (COVID-19)	12
TOTAL		20※

※別紙1

4. 本事業以外にA-PADの活動に共鳴したドナーはHSBCの1団体から下記5回の支援を受け(目標 各災害対応毎に1団体以上)、本事業期間内の支援はHSBCの1団体(目標 3団体)から支援を受けた。支援を呼びかけた民間セクターでHSBCのみから要請の申し出があり、その後同団体から重ねての支援が受けられた。

- ① COVID-19 衛生用品・機材支援(2020.3 - 2020.5)
LKR 7,500,000/約450万円、
- ② COVID-19感染者支援(2020.11 - 2020.12)
LKR 5,000,000/約300万円
- ③④⑤ 3つのクリスマス特別支援(2020.12)
 - ・孤児への支援(LKR 840,000.00/約50万円)
 - ・イースターテロ被災家族支援(LKR 1M/約60万円)
 - ・検疫センター支援(LKR 5M/約300万円)

また2020年9月、A-PADの日本は、世界規模のファンドレイジングサイト(Global Giving)でスリランカ向けの寄付キャンペーン「コロナ禍における教育支援/Distance Learning for 3,000 Children in Sri Lanka」を行い、USD467.21(47,939円)が集まった。

5. 災害発生時に、官民連携の事例が各災害毎に平均7例/計20例(目標2例以上/計6例)生まれた。(上記3と同じ)

またセクター別のパートナーは下記のとおりである。

	政府機関	軍関係	企業	国際機関	市民団体	合計
数	58	15	66	3	15	157

- ① 新聞やTVなどのメディアのパートナーが24社(目標は前年度比50%増の6社)に増え、A-PADの活動が12回(目標は20%増の12回以上)紹介された。国内外へ向けた活動の積極的な発信、また一つのメディアに掲

載されることにより更に別のメディアへの掲載に繋がった。The Capital Maharaja Organization グループの12ステーション

- ② Dan TV
- ③ Economy Next Online Print Portal
- ④ Lankawin Online Print Portal
- ⑤ Newswire Online Portal
- ⑥ Daily Mirror Newspaper
- ⑦ Daily FT Newspaper
- ⑧ The Sunday Times Newspaper
- ⑨ Uthayan Newspaper - Northern Province
- ⑩ Kaalaikathir Newspaper - Northern Province
- ⑪ Sudar Oli Newspaper - Northern Province
- ⑫ Tamilwin Newspaper - Eastern Province

(イ) 緊急対応の能力強化（民間・軍・政府の連携調整の基盤整備）

1. 研修終了時の参加者に理解度及び習熟度を測る修了テストを実施し、参加者全員が修了書を受領した。テストは知識を確認するためのペーパーテスト 50 問（80%以上の正解で合格）、技能やチームワーク能力を判断する個人技術テストと団体技術テスト（いずれも5点満点中3点以上で合格）を実施した。（※計画では理解度テストで60%以上の参加者が75点以上をとる、としていた）
2. 専門家による水難訓練の内容に対するアンケート結果は以下のとおり。

5 大変良い	4 良い	3 普通	2 少々不満足	1 悪い
Q1 研修は期待に応えるものであったか？				
91.30%	8.69%			
91.66%	4.16%			
Q2 研修を通して新しい知識や技術を得られたか？				
73.91%	4.34%	13.04%	8.69%	
91.66%	4.16%			
Q3 研修は実際の仕事や生活に関連する興味のあるものだったか？				
78.26%	21.73%			
87.5%	8.33%			
Q4 研修で学んだことを実際に行動に移したいか？				
82.60%	4.34%	8.69%		
91.66%	4.16%			
Q5 講師の教え方はよかったか？				
86.95%	13.04%			
91.66%	4.16%			

※上段：Level 1（回答者23人）、下段：Level 2（回答者24人）

3. 災害発生時、捜索救助チームが稼働し、官民軍が連携することで、情報の迅速な共有や発信と、より広範囲のステークホルダーとの連携した活動が実施された。
4. 当該分野の政策ペーパーに4例（目標3例以上）、本事業による活動を経た内容が反映された。

- ① 「2019 Presidential Election」 ※別紙2-1
- ② 「Access to Examinations amidst Disasters」 ※別紙2-2
- ③ 「Ramadan amidst COVID-19」 ※別紙2-3
- ④ 防災センター（Disaster Management Centre）がコロナ禍における災害時の

(ウ) 海外組織とのネットワーク構築活動

1. 前述の通り、予定していた A-PAD SL の国際シンポジウムは新型コロナウイルス感染拡大に伴い今期間内の開催を中止したが、UN をはじめとする国際機関主催の国際会議にパネリストとして参加し、スリランカの官民連携の災害対応の事例を発表した。災害時の迅速な連携体制の重要性を参加者一同が再確認し、災害支援を行う海外コミュニティにおいての A-PAD の知名度を拡大した。
2. 防災に関する A-PAD SL の活動記事が新聞・雑誌に年 8 回（目標 新聞に 5 回以上）掲載された。
 - ① 2019/12/12 (Daily Mirror) Top Lankan businesses pledge support to tackle high malnutrition
 - ② 2019/12/14 (Daily FT) Leading businesses pledge support to tackle Sri Lanka's high malnutrition
 - ③ 2020/03/26 (Uthayan) Hand gloves and sanitizers handing over to District Secretariat
 - ④ 2020/03/26 (Kaalakathir) Hand gloves and sanitizers donated yesterday
 - ⑤ 2020/03/28 (Kaalakathir) Sanitizers and mask donations for disaster relief activities
 - ⑥ 2020/03/28 (Sydar Oli) Sanitizers to Jaffna Secretariat
 - ⑦ 2020/04/19 (Sunday Times) A stitch in time that could save Lanka's apparel industry.
 - ⑧ 2020/07/11 (Daily FT) A-PAD - HSBC Partnership: HSBC launches extended relief programme for most vulnerable communities

3. A-PAD SL の活動が国際会議や学会等で年 15 回（目標 2 回以上）報告された。目標値を上回った理由としては、活動を共にするパートナーや会合に参加するメンバーの増加、また A-PAD SL の情報発信やメディア掲載の増加により会議出席の要請が増えたことなどが要因と考えられる。

※別紙 3

4. 国際ネットワーク間の相互支援によって、防災・災害対応の効果を上げた事例は以下 3 例である。（目標は年間 1 事例以上）
 - ① A-PAD SL は HSBC スリランカ支店より新型コロナの急速な感染が拡大中の中国武漢へのマスク支援の協力要請を受け、国内産マスク 2,240 個を調達し A-PAD SL のパートナー企業 (Aitken Spence Cargo) に輸送協力を依頼、2020 年 2 月に届けた。
 - ② A-PAD SL は日本の A-PAD 本部からの緊急支援で、国内の工場で生産されたマスクや消毒液など DMC を通じて国内のコロナ対策従事者らに配布した。
 - ③ A-PAD SL はコロナ感染関連の支援先を探していた HSBC の香港本社を日本のプラットフォームである APAD ジャパンに紹介し、COVID-19 Relief Programme の事業として USD 70,000 の寄付を日本で受けた。

(4) 持続発展性

例外なく毎年発生する自然災害と共存しているスリランカ国では、災害対応の強化とともに、被災規模を最小限に抑えるための事前準備、災害対応力或いは被災からの復興力（レジリエンス）を高める活動を継続することは不可欠である。A-PAD の活動は、被災からの影響を最も受けるとされる社会の弱者や貧困層への支援に直結しており人道支援の観点からも終わりは見えない。

また水災害の多い国でありながらレスキューの技術や資機材が整っていない中、海外の専門家の派遣で民軍連携のレスキューチーム編成の土台を整えた。今後は国内のレスキューのリーダー育成に注力し、優秀な人材の輩出とともにレスキューの裾野を広げつ

つ人材を確保・拡大していくことも不可欠である。

海外においては、スリランカ国は国連の CBi (Connecting Business Initiatives) のメンバー国であり、A-PAD SL はスリランカ国の代表として CBi 主催の国際会議にの常連メンバーで、A-PAD の民間セクターとの災害支援の取組みは国際的にも注目されている。

また連携については DMC をはじめとする政府関係機関や中小・大企業、メディアなど、マルチアクターとの関係を今後も継続・拡大・強化していく。特に民間セクターとの連携事例として、HSBC からの資金援助は本事業年度内に 6 例に上り、これは A-PAD SL が信頼と期待を得たことを示していると言えるが、今後も CSR (社会貢献) に関心の高い企業へのアプローチやファンドレイジング等、財政面の自己努力も最大限行っていく。